

投げ銭 シアターファンディングに 皆様のご協力を

作演出・北野 茨 舞台美術「書」・荒木 茂

生きろ伊賀七 二幕

- 1 講談筑波乃丞
- 2 アマビエ
- 3 毒消し
- 4 谷田部陣屋敷 殿様帰郷
- 5 夜がけ伊賀七 下賜米配り

休憩 10分

- 1 最愛オリセ伏す
- 2 八兵衛慟哭（どうこく）
- 3 伊賀七決心
- 4 祈願七日七晩
アマビコ
- 5 生きろ伊賀七
ヤマワラシ

第一幕

第二幕



伊賀七	中村 壮志
フリセ	竹田 京子
ヲモヨ	高野 培美
八兵衛	羽田 芳夫
奉行源吾衛門	直井 雄二
今川宅三郎	高橋 良文
広瀬周伯	北野 茨
	羽田 芳夫
細川候	沼尻 渡
神団筑波乃丞	北野 茨
あまびえ嬢	大藤富美江 長塚たか子
	羽生道代 佐藤孝子
	富田順子 前岡弥生
あまびえ隊	市内小中学生の皆さん
太鼓祈願	武内瑛太郎

その他のみなさんの出演

総差配・宮崎栄二 勘定元締・渡辺治久 舞台監督・富田順子 舞台美術・ステージ茨 照明・田向澄男
音響操作・飯島和雄 舞台写真・高田光一 着付・小原文子他 あまびえ組長・久我 勉 司会・若柳綾子

状況乗り越えるヒント

つくば市長 五十嵐 立青

「生きろ伊賀七」公演の開催おめでとうございます。

わわわやたべや町民会議のみなさまは、昨年度の「あっぱれ伊賀七」、「クリスマス伊賀七」や「伊賀七 BRAND DAY」の開催など、精力的な活動をされており、私も何度か足を運ばさせていただきました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、開催に至るまで様々なご苦労があったことと思います。そのような中であって、かつて谷田部で流行したとされる疫病に飯塚伊賀七を中心とした当時の住民がどう立ち向かったのかをテーマに選び舞台を作り上げてしまうところに、まさに今の谷田部地区のみなさまの前向きな力を強く感じています。舞台の中にこの状況乗り越えるヒントがきっと隠されていると思いますので、公演を心から楽しみにしています。

地域が一体となってその魅力を活かしていくわわわやたべや町民会議のみなさまの取組は、間違いなく活気ある地域づくりのお手本の形のひとつです。

これからも多くの活動をご一緒できることを楽しみにしています。

町づくりの息吹感じて

谷田部市街地活性化協議会 宮崎 栄二

本日は、コロナ禍で何かと行動が制限される中、ご来場頂き誠にありがとうございました。

「谷田部市街地の賑わいを取り戻したい！」を合い言葉に、4年前に谷田部市街地のオータムフェアという秋のイベントが誕生しました。このイベントを通して多くの仲間と出会い、そして新たな取り組みが生まれました。

飯塚伊賀七という郷土の偉人に出会い、彼の功績を前面に押し出し谷田部の魅力を発信しようと伊賀七座が結成され瞬く間に5回の公演を成功することが出来ました。

まちづくりに必要なものが何か臆気に見え始めたところです。これまでの行政に依存する姿勢から私たち住民自らが主体的にまちづくりに参画することがまちづくりの原点と気づきました。

今日はまちづくりの息吹を感じて頂ければ幸いです。

飯塚家の初代は山田衡算という人物で、京都の儒学者。2代と3代は本郷姓を名乗り、4代から飯塚姓。伊賀七の子孫は明治初期まで寺子屋を開いて地元の子供らに教授するなど、先祖代々学問に通じた家系。

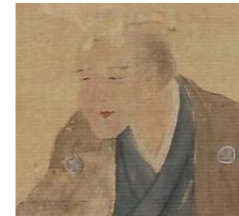


発明品

大型のそろばん 酒買い茶くみ人形 人力飛行機 木製の自転車 農業機械の打穀機
自動製粉・精米機 和時計 五角堂 布施弁財天鐘楼堂（千葉県柏市の多宝造鐘楼堂） さしこ造の母屋（中二階に隠し部屋があった！） 分間谷田部絵図 測量器具十間輪道具 エレキテル

飯塚伊賀七

名主



生

宝暦 12年 3月 29日

1762年 4月 23日

没 74歳

天保 7年 11月 17日

1836年 12月 24日

妻 フリセ

父 仁兵衛

母 フモヨ

子 (ヲキヨ)

(ヲサノ)

(仁治郎)

ヲユキ

(幼児期死別)

つくば市と伊賀七

2009年

伊賀七をからくり=ロボット開発者として「ロボットの街つくば」提唱

2012年

伊賀七生誕 250周年記念

「からくり伊賀七 つくばが生んだ奇才のエンジニア」

約 50 点の展示と和時計実演

伊賀七と谷田部の街づくり

2018年 11月

わわわやたべや町民会議 発足

2019年

つくば市R8地域活性化コンペで採択プラン選定

2020年

同 採択プラン再選定

伊賀七テーマの町芝居で町おこし

北野茨（町内在住脚本家）の脚本、町内在住の人びとにより怒涛の上演

あっぱれ伊賀七 朗読劇にんげん伊賀七 再演あっぱれ伊賀七

クリスマス伊賀七 組曲伊賀七 生きろ伊賀七 来年は県外へ！

1000 個を目指す和提灯まつりや寄合所伊賀七庵での個別企画

驚く べきからくり 刮目 すべき芝居の神様

伊賀七座 座長 北野茨

東日本大震災。すべての舞台がキャンセル。芝居の神様が私の前から消えた。あれから十年近く――。生地できまよう私に伊賀七座が与えられた。

そして一年ちょっと。伊賀七座表方裏方メンバーの成長進歩奮迅なことと言ったらどうだ。何故こんなことが出来たのか。奇跡である。

この奇跡は町おこしの運動から生れた。好き勝手にやっていたらこんなことは出来ない。自分の住む町おこしだからこそ力が湧いたのではないか。

につくきコロナ、どうしても成敗しなければならぬが、問題はその前にニンゲンそのものが成敗されてしまいかねないことだ。でも大丈夫。伊賀七座の経験が教えてくれている。

一人じゃない。この町おこしの運動は最強だ。みなさんと進めば何も怖くない。こんなにできるのだからきっと町もおこせる。みんなの進歩刮目力闘で進めばいい。

今わかった。からくりの神様、そしてあの時去った芝居の神様がこの町にいた――。

クリスマス伊賀七より

